

野菜の健康診断を行い契約産地へ伝達 ～安定生産、安全・安心への取組～

デリカフーズ(株)九州事業所福岡FSセンター
(福岡県宗像市)



1 組織の概要

組織名称	デリカフーズ株式会社九州事業所福岡FSセンター
業種(事業内容)	食品製造業(ホール野菜、カット野菜、真空加熱加工野菜)及び野菜の卸売
代表者名	事業所長 梶島 勇樹
所在地	福岡県宗像市東郷3-5-2
連絡先	TEL:0940-62-5838 FAX:0940-62-5839
従業員数	役員1名、従業員337名(社員47名、パート235名、技能実習生55名)

2 取組の推移

2012年3月	デリカフーズ株式会社九州事業所設立
2020年4月	デリカフーズ株式会社九州事業所福岡FSセンター稼働

3 加工・業務用野菜の取組概要

(1) 基礎情報

主な野菜品目	レタス類	キャベツ	だいこん	トマト	こまつな
主な用途	サラダ、ファーストフード		サラダ、添え物	サラダ、ファーストフード	サラダ、煮物、和え物
年間使用量(トン)	2,000	1,000	200	100	20
国産使用比率(%)	100				
主な産地	熊本(冬)、長野、群馬(夏) 静岡(秋・春)		熊本(秋・冬) 鹿児島(冬)	熊本(冬・春) 愛知(秋)	福岡(周年)
産地との契約	契約あり				
主な原料調達先	熊本 (タスパス出荷組合、山田ファーム)	熊本 (タスパス出荷組合)	鹿児島 (大崎農園)	熊本	福岡 (泰正農園)
原料の受入形態	コンテナ、段ボール			段ボール	
製品出荷先	外食・中食事業者				

(2) 取組の特徴

九州を中心に全国の産地と連携し、周年を通じた安定生産・安定供給体制を実現。ホール野菜、カット野菜、加熱野菜等を製造し、九州全域の外食・中食事業者に出荷している。

- ① 実需者ニーズに応えるため、原則、原料野菜は国産野菜を使用。
- ② 原料の安定調達を図るため、九州を中心に産地との契約栽培を行い、約7割を契約生産者から調達。不足する原料については、デリカフーズグループ間で連携・調整し、産地リレーを実施。
- ③ 産地の生産性の向上や安全・安心への取組として、野菜品質評価基準(デリカスコア)を構築し、野菜の残留農薬や栄養価、土壌分析結果等を可視化して産地へ情報提供。
- ④ 産地に対し、実需者ニーズの情報提供や栽培技術をアドバイスするなど、持続可能な農業を目指して支援。
- ⑤ 日本GAP協会アドバイザーとして、産地のGAP導入を支援。
- ⑥ コールドチェーンの産地導入を支援。

(3) 国産原材料の使用理由

国産野菜の安定供給を求める実需者ニーズに応え、農業の持続的発展、国民の健康増進に貢献するため、安心・安全で鮮度にこだわった国産原材料を使用している。

(4) 契約栽培のメリット

- ① 国産原材料の安定調達や使用したい野菜の種類、時期、品質等が担保できること。
- ② 生産者の栽培情報がダイレクトに把握でき、意見交換等を通して品質改善に繋がれること。
- ③ 残留農薬などのトレーサビリティが担保できること。
- ④ コールドチェーンを通して新鮮な野菜を提供しており、契約生産者から直接仕入れる方がコールドチェーンの管理が徹底できること。

(5) 野菜品質評価基準(デリカスコア)について

- ① 野菜の色や形などの外観だけでなく、中身成分に基づいた野菜評価を行うため、食品安全、栽培、中身成分及び流通に関する19項目からなる野菜品質評価(デリカスコア)を構築。
- ② 単なる取引の基準ではなく、多様化する野菜ニーズの評価ツールとして、より付加価値の高い野菜生産を目指すための取組指標として契約産地へ導入を図っている。
- ③ 九州では、4県(佐賀県、熊本県、宮崎県、鹿児島県)の生産者が導入済。

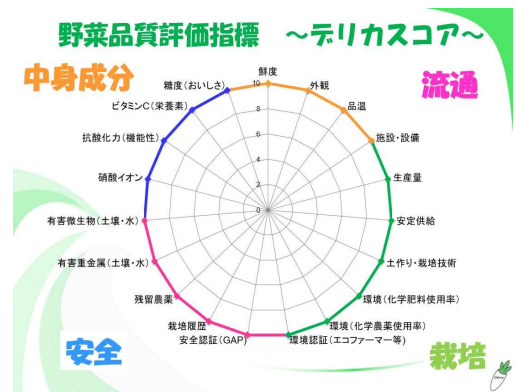
(デリカスコアの主な項目)

食品安全: 残留農薬、有害微生物、有害重金属、GAP、栽培履歴

栽培: 生産量、安定供給、土づくり・栽培技術、環境(化学肥料・化学農薬使用率)、環境認証

中身成分: 糖度、酸度、ビタミンC・βカロチン、抗酸化力、硝酸イオン

流通: 鮮度、外観、品温、冷蔵施設・設備



4 取組の成果

- ① 原料野菜は、市場より契約栽培の方が安定的に調達できるのでメリットが大きい。
ただし、産地から調達できないものもあるので、市場の良さも理解しながらお互い共有している。
- ② デリカスコアの産地導入により、コールドチェーンを確立し鮮度の高い野菜を提供している。
九州では、夏場に一時冷蔵保管し出荷するものの納品先で鮮度が落ちる課題があった。デリカスコアによる検証((5)の流通)を行ったところ、常温車による配送に鮮度低下の原因があることが判明し、改善策として冷蔵車を導入した事例がある。
- ③ デリカスコアを指標とした野菜生産部会が立ち上がるなど、付加価値を付け差別化に取り組む産地も拡大している。

5 課題とその対応

葉菜類については、長期保管がしづらいものがあり周年安定供給に課題がある。
今後、長期間鮮度を保持できる品種の選定や貯蔵施設の整備等の対策を検討する必要がある。

6 今後の展開

- ① 土づくり、栽培技術の支援に力を入れ、野菜の中身成分(糖度、ビタミンC、抗酸化力、硝酸イオン)を考慮した高品質化を目指す。
- ② 生産者とのマッチングの機会を増やし、産地契約を拡大する。
- ③ 宗像市内の生産者との連携を強化し、原料野菜の産地化を進め、安定調達、コスト削減及び安全・安心な商品の提供に繋げたい。